排<mark>戦する企業</mark> アジアパイルホールディングス 株式会社

ことで一つの決意が生まれたという。

「ここにいる人たちは皆、誠実でよい仕事をするに

もかかわらず、そのことが世の中に知られていませ

3種類の杭打ち工法を駆使し、 「基礎建設業界」を確立したパイオニア

ビルや橋、高架など、あらゆる構造物の土台を支える基礎建設は、高度な専門知識と熟練の技術が求められる。 歴史ある3社の統合によって誕生したジャパンパイル株式会社は、杭基礎のすべてを網羅した業界随一の総合基 礎建設会社に成長。持株会社のアジアパイルホールディングス株式会社を設立し、ベトナムを中心にアジアへと 市場を拡大している。

建物は通常、地中深くまで杭が打ち込まれ、上部を 支える構造になっている。基礎が建設されているから こそ、地震などによる倒壊を防ぐことができる。この 基礎建設の要となる工事が杭打ちだ。杭打ちには「コ ンクリート杭 | 「場所打ち杭 | 「鋼管杭 | の3種類があ り、地盤の状態やその上に建つ構造物の性質によって 最適な方法が異なってくる。

がまったく異なるため、これまでは専門分化されてい た。だが2005年、コンクリート杭で独自の技術力を もつ株式会社ジオトップと大同コンクリート工業株式 会社、場所打ち杭の事業部門をもっていたヨーコン株 式会社の3社が統合し、ジャパンパイル株式会社が設 立された。3年後には、鋼管杭事業をもつ事業者とも 業務協力協定を結び、ここに日本で初めて3つの杭基

同社はその後、ベトナム、ミャンマーに進出。15 年に持株会社アジアパイルホールディングス株式会社 を設立し、アジア諸国で積極的に事業を展開している。

同社代表取締役会長の黒瀬晃氏は、大手都市銀行出 身で01年にジオトップに入社。銀行員から基礎建設 業への転身は想定外だったものの、実際に内実を知る

ん。基礎建設は文字どおり社会の礎を築く重要な事 業です。それをもっと世に浸透させ、働く人が誇りを もてる職場にするべきだと考えました。私たちは社会 を支える『支持力』を売る会社であるという理念を共 それぞれの工法は、杭の材料や製造方法、施工過程 有してきました

そこでまず、黒瀬会長が取り組んだのは「基礎建設 業界 | の構築だった。基礎建設という分野は、もとも と建設会社の業務の一部だったこともあり、確立され た業界があったわけではない。しかし、バブル崩壊 後、建設業界でも業務のアウトソーシング化が進み、 基礎建設の部分も事業者で自主管理するケースが増え ていった。そうした流れの中で黒瀬会長は、「基礎建 礎をすべて取り扱う総合的な杭打ち企業が誕生した。 設業という業界を確立することで、社会的認知度や評 価が上がるのではないか と考えた。

基礎建設の技術とノウハウをアジアへ展開

だが、新しい業界として認められるためには、業界 としての専門性や独自の技術体系が必要だった。

「当初は基礎設計の定義すらありませんでした。そ こで専門家に依頼して、基礎設計とは何かを定義する



建築基礎設計士をはじめとした資格取得を目指した

熊本県菊陽町に建設予定の半導体工場では、東京ドーム約5個分の 広大な敷地に16台の杭打ち機を稼働させている



ベトナムの風力発電所などの基礎工事を数多く手がけているプロジェクトチーム



建設業界は男性中心の職場の印象が強いが、設計部などでは 多くの女性社員が活躍している

教科書づくりから始め、試験をクリアすれば『建築基 礎設計士』という資格を付与する制度を整えたのです」

社内資格制度としてスタートした「建築基礎設計 士」だが、現在では一般社団法人基礎構造研究会に移 管され、一般にも開かれた資格になっている。

設計とともに、基礎建築に特化した施工管理技術も 独自性のポイントだ。こちらは、杭基礎の同業団体と の調整を重ね、杭基礎工事を安全かつ円滑に施工する ために必要な知識と技術を網羅した「基礎施工士」の 資格をつくり、国土交通省の登録資格に認定されてい る。こうして「基礎建設業界」は着々と形になりつつ

黒瀬会長が経営トップに就任したとき、「3つの杭 基礎すべてを取り扱うこと」「売上高500億円」「東証 一部上場 | という目標を掲げた。これらはすべて実現 し、売上高は1.000億円に到達しようとしている。主 力であるコンクリート杭の国内マーケットは年々縮小 傾向にあるものの、技術開発力や施工体制の強化な ど、総合力でシェアを拡大してきたのがその要因だ。

そして、国内市場の縮小を見越して、10年から海 外進出を開始。最初に選んだのはベトナムだった。

「銀行員時代から何カ国もの国々とビジネス上の関 わりをもってきましたが、仕事に対する考え方が日本 人に最も近いと感じたのがベトナムでした。当社の社

員が一緒に働きやすい土 壌があると考えたのです|

予想どおり、ベトナムで の事業はすぐに軌道に乗 り、30億円からスタート した事業規模は、現在200 億円規模に成長している。

建設業界においては、高 齢化と人材不足が懸案事 は喫緊の課題だ。それらの指揮を執るのが、22年に 代表取締役社長に就任した黒瀬修介氏である。黒瀬社 長は黒瀬会長の大学の後輩にあたり、銀行員時代も上 司と部下の関係で互いに熟知する間柄だ。前職ではシ ステム開発の責任者を務めた経験もある。

項となっている。働き方改革や業務のDX化・AI化

「場所打ち、鋼管の拡充」と「海外マーケットのさ らなる拡大」に意欲を示すとともに、「10年スパンで 取り組む」(黒瀬社長) と長期的視野での人材育成を 重要課題としてあげている。社内資格制度の整備など で自己研鑽の場が設けられ、有資格者は業界最大規模 を誇る。また、国内の基礎設計部門54名のうち女性 26名、海外を含むグループ全体の役員は33名のうち 女性5名、外国人10名と、性別・国籍等を問わず、 人物・能力本位の人材登用が特長になっている(2021 年度実績)。

23年は、統合した3社のうち最も古い歴史をもつジ オトップの創業から100年の節目にあたる。社会の基 礎を支え続ける同社は、「基礎建設業界 | の先導者と して次の時代の土台を築いていくだろう。



Corporate Profile

代表取締役会長 黒瀬 晃

代表取締役社長 黒瀬 修介

東京都中央区日本橋 箱崎町36-2 932億円 (2022年3月期連結) 2,867名 従業員数 (2022年3月末現在

https://www.asiapile-hd.com/

◎取材・文/若林邦秀 撮影 (P.13右上、下) /寺澤洋次郎 写真提供 (その他) /アジアパイルホールディングス株式会社